

最初に以下の通りに設定してください。

用紙：A4 サイズ

余白：上 43mm 下 34mm 左右 33mm

文字数：37

行数：34

フォント：明朝 12（タイトルのみ 18）

名古屋高等教育研究論文タイトル(40字以下)

東 海 花 子*

名古屋 太 郎**

＜要 旨＞

本稿の目的は、…。

要旨は 400～500 字とする。

1. はじめに

日本の大学でこれまで実施されてきたFDのほとんどは、学士課程・学部教育を対象としたものである。全国の大規模大学に数多く設置されている高等教育の関連センターは、主として学士課程におけるFD、初年次教育、授業評価などを扱っている。一方では、この数年来「魅力ある大学院教育イニシアティブ」や「大学院教育改革支援プログラム」のような政府主導の競争的資金が全国の大学院に専攻単位で配分され、「大学院教育の実質化」というキーワードのもとに組織的取り組みが促進されるようになっている。しかし、こうしたプログラムの重点はコースワークの充実に置かれ、個別の研究指導についてはほとんど注目されてこなかった。大学院のコースワークを国際水準並みに充実させることは重要な課題であるが、大学院教育の主眼が学位認定にあることを考えれば、その核心が学位論文作成とその指導にあることは昔も今も変わらない（専門職学位課程を除く）。大学院生自身もそのように自覚しているとの調査結果もある¹⁾。

*尾張大学大学院工学研究科・教授

**三河大学教育開発センター・准教授

表1 表タイトル

表

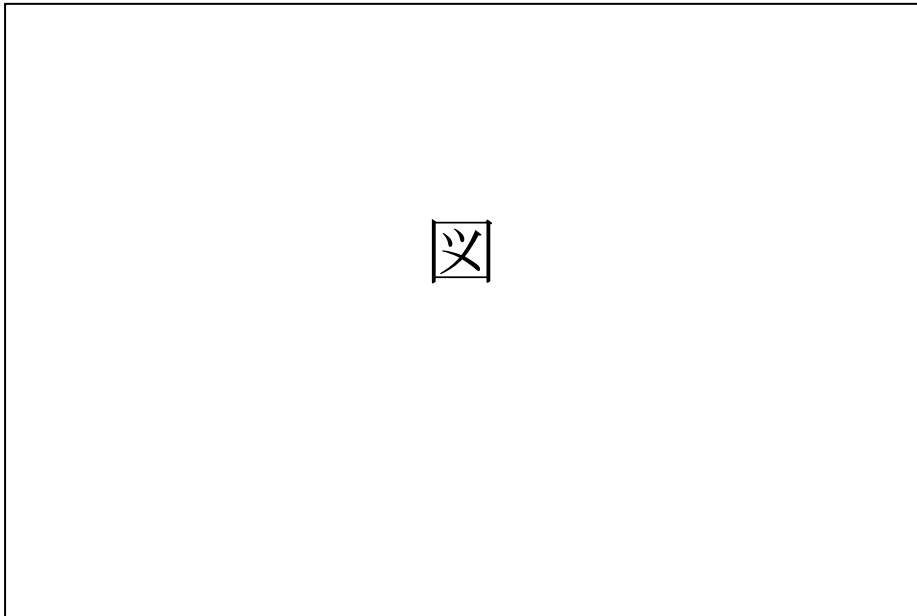


図1 図タイトル

2. 本文見出 2
2.1 本文見出 2-1
2.1.1. 本文見出 2-1-1

注

- 1) 広島大学が 2003 年に全国の大学院生に対して実施した調査結果によると、大学院での研究生活を充実させる上で何が重要かという問いについて、「カリキュラム」(83.0%)、「授業の内容」(86.3%) に対し、「指導教員の研究指導の内容」(97.6%)、「指導教員と相談する機会」(93.9%) がより高い数値を示している(「非常に重要」と「少し重要」の合計値)。このことは、大学院生の研究生活において、研究指導および指導教員との関係がコースワーク以上に重要であると学生が考えていることを示している。広島大学高等教育研究開発センター編、2004、COE 研究シリーズ 3『大学院教育と学位授与に関する研究—全国調査の報告』、184-5。
- 2) 金子元久、2006、「人文社会系大学院の展望」『IDE 現代の高等教育』478:37 (2006 年 2-3 号)。

参考文献

- Fischer, Beth A. & Zigmond, Michael J., 2001, “Promoting Responsible Conduct in Research through “Survival Skills” Workshops: Some Mentoring Is Best Done in a Crowd”, *Science and Engineering Ethics*, 7 (4): 563-87.
- 藤垣裕子、2007、「科学技術社会のゆくえ—科学者の社会的責任論の系譜から」『科学』通巻 900 号 (Vol. 77, No.8)。